

「漫画の場景と実際の眺望に基づく東京タワーの景観の保全・活用に関する提案」

大竹由夏(筑波大学)

発表要旨

東京タワーは近代的な都市—東京—の原点となる建造物である。なかでもそれを含んだ周辺の都市環境とともに変貌を遂げる景観は、東京の魅力を伝えるものである。

本研究の目的は、東京タワーの眺望景観の保全・活用するための景観施策を提案することにある。

1章では、既存の眺望景観保全の取り組みについて調査した。都市空間における建造物の眺望保全において、目標景観像を定めることで、明確な重要眺望点の選定ができ、眺望景観誘導範囲のような景観形成に関する基準をより詳細に示すことができることを明らかにした。

そこで2章では、東京タワーの目標景観像を明確にするために、漫画に描かれた東京タワーのイメージを考察した。漫画を対象とした要因は、以下の通りである。1) 静止画として表現されることから共通した景観像をイメージできる。2) 視点・視線を自由に設定できるため、眺望景観を様々な角度から捉えることができる。3) 大衆文化として親しまれており、文化政策の一環として昨今積極的に育成する動きもみられる。

東京タワーが完成した1958年以降の漫画作品を探索し、1982年から2010年までに出版された23作品333コマを収集した。これらでは、東京タワーは、東京、日本、高度経済成長期、恋愛、社会的地位、恋愛、希望、孤独を象徴するものと表現され、また、見上げるものからまっすぐ見るもの、見下ろすものへと時代とともに変化しており、東京タワー周辺の高層化した現実が漫画にも反映されていることを明らかになった。また、東京タワーの眺望点は、既存の景観計画において眺望を保全する際に重要眺望点に選定される「地上レベル」だけでなく、「高架レベル」、や「高層レベル」から多く描かれていることを指摘した。また、漫画に描かれた東京タワーのほとんどにおいてその大展望台が描かれていた。さらに、東京タワーの眺望景観の種類は、足下景・公園景・寺社景・街路景・高速道路景・電車景・水辺景・上空景の8つにわけられた。このように、東京タワーの魅力は象徴の豊かさと眺望景観の豊かさにあり、これらの魅力を活かすためには、複数の重要眺望点を設定し、眺望景観を保全

していくべきであると結論づけた。

3章では、250人にインタビューを行い、東京タワーの眺望景観において、重要眺望点から得られる東京タワーの見え方は、少なくとも、それが東京タワーと認知できるように、大展望台まで見える必要があることを明らかにした。

4章では、タワーの大展望台が見える地点に着目し東京タワーの眺望景観を目視調査した。対象地は、1章の既存の眺望景観保全の取り組みにおける重要眺望点と、2章の漫画に描かれた東京タワーの眺望点に基づき、タワー正面、周辺街路、芝公園、増上寺、東京湾岸・隅田川岸、首都高速道路、JR山手線、展望台とした。

5章では、2章の漫画の調査で得られた8の眺望景観の種類を、目標景観像と定め、同様に望見できる10の地点を重要眺望点と選定した。さらに、目標景観像としての眺望景観が得られるように、高さ制限を定めた眺望確保エリアや緑地保全を必要とする範囲などの眺望景観誘導範囲を定めた。そして、これらをまとめた東京タワーの眺望景観保全マップを作成した。

6章では、8の眺望景観の種類を活用する提案、「アクセスルート」、「車窓景・乗船景」、「新規展望施設」を挙げた。そして、これらをまとめた東京タワーの眺望景観活用マップを作成した。

以上のように本研究では、漫画に描かれ場景から東京タワーの目標景観像を明確にし、その目標景観像のように望見できる地点を目視調査で探索し、明確な重要眺望点を設定し、景観形成基準を示し、さらに東京タワーの眺望景観を活用する方法を提案した。

博士号取得大学および取得時期

筑波大学 平成28年3月